



アメリカ

乳幼児用歩行器の禁止を求めて

CR(コンシューマー・レポート) <https://www.consumerreports.org/product-safety/baby-walkers-unsafe-still-sold-in-us-a3111814380>
 CPSC(アメリカ消費者製品安全委員会) <https://www.federalregister.gov/documents/2010/06/21/2010-14323/safety-standard-for-infant-walkers-final-rule>
 AAP(アメリカ小児科学会) <https://publications.aap.org/aapnews/news/13889/Study-Infant-walker-injuries-support-AAP-s-call?autologincheck=redirected>

キャスター付きで中に座るまたは立つタイプの乳幼児用歩行器(手押し式を除く。以下、歩行器)に関連する事故で、2004～2008年に年平均約3,000人の生後15カ月未満の乳幼児が救急搬送され、8人が死亡したとCPSCは推計している。AAPの同様の調査では、1990～2014年に23万人超が救急治療を受け、その91%が頭頸部^{とうけいぶ}負傷であり、原因の74%が階段からの落下、次いで歩行器からの転落であった。思わぬ接触でやけどになることもある。

業界自主規制であったASTM規格に準拠していない製品による死亡事故もあり、CPSCは2010年にASTM規格準拠を義務化し、違反製品のリコールや規格改正などで安全性の強化を図った。歩行器の販売数や使用人口の減少等により負傷者は減ったが、依然として歩行器は乳幼児の傷害の主な原因だとし

て、AAPは歩行器の製造・販売の禁止を求めている。歩行器の使用で早く歩けるようになるという医学的根拠はなく、むしろ体重を支える脚力が発達せず自然で正常な歩行の習得を妨げるといふ。親から子・孫へと歩行器に慣れ親しんできた地域もあり、またASTM規格を満たさない製品や規格準拠が義務化される前の中古品がネットで多数販売されているため、相当数の事故が発生しているのではないかとCRは指摘し、AAPによる歩行器の製造・販売の禁止要求に賛同した。州によっては禁止の動きもあるが、CRは全国一律の禁止を求めている。禁止が乳幼児の危険防止の唯一の対策だとCPSCが証明するのは容易ではないが、CRは連邦法による禁止を議会に求める請願書への署名を呼びかけるとともに、保護者に対して購入・使用を控えるよう助言している。



オーストラリア

2024年のシオンキー賞は

CHOICE(オーストラリア消費者協会) <https://www.choice.com.au/shonky-awards/hall-of-shame/shonkys-2024/2024-shonky-winners>

消費者が2023年に遭遇した粗悪な製品やサービスに対するシオンキー賞がこのほど発表された。同賞に選ばれた5件とその表彰理由を紹介する。

●2023年に報告された詐欺被害額は2020年の250%増の約9500万豪ドル(約95億円)で、その76%は巨大オンラインプラットフォームが運営するSNS経由の詐欺であった。CHOICEが詐欺と疑われる3件の広告を報告したところ、1件は4日経過しても削除されなかった。●代表的な民間健康保険会社。夫婦の医療保険プランに保険料3%増で子ども1人分の追加が可能であるのに対し、ひとり親では70%増となるのはひどく不公正である。●某グリーンジュースには、野菜成分は一切含まれず、フルーツジュースに緑の着色料を添加したものであることが、成分表示どおりに作ったCHOICEの実験で判明。

ラベルにグリーンと表示するのは、健康的、環境にやさしいなどの誤った印象を与える。●PCメーカーの新製品、コードレススティック掃除機。商品テストで、貧弱な吸入力やゴミ詰まり、充電に長時間かかるなど欠点が明らかに。●地面を裸足で歩き地球の電気エネルギーに触れて身体の不調やストレスを緩和するグラウンディング健康法が在宅でできるとうたう靴下。靴下に縫い付けたポートとコンセントをUSBケーブルでつなぐ。健康法そのものに科学的根拠が乏しいうえに、ケーブルの抜き差し2回だけで引きちぎれる靴下は粗悪品。

CHOICEは、規模の大小を問わずシオンキー(粗悪)な製品やサービスがいまだに市場に氾濫^{はんらん}していることが明らかになり、来年20周年を迎えるこの賞はこれまで以上に必要だと述べた。